

# 『がん診療における化学療法の連携』に 関するアンケート調査

71名から回答を頂戴しました

感謝

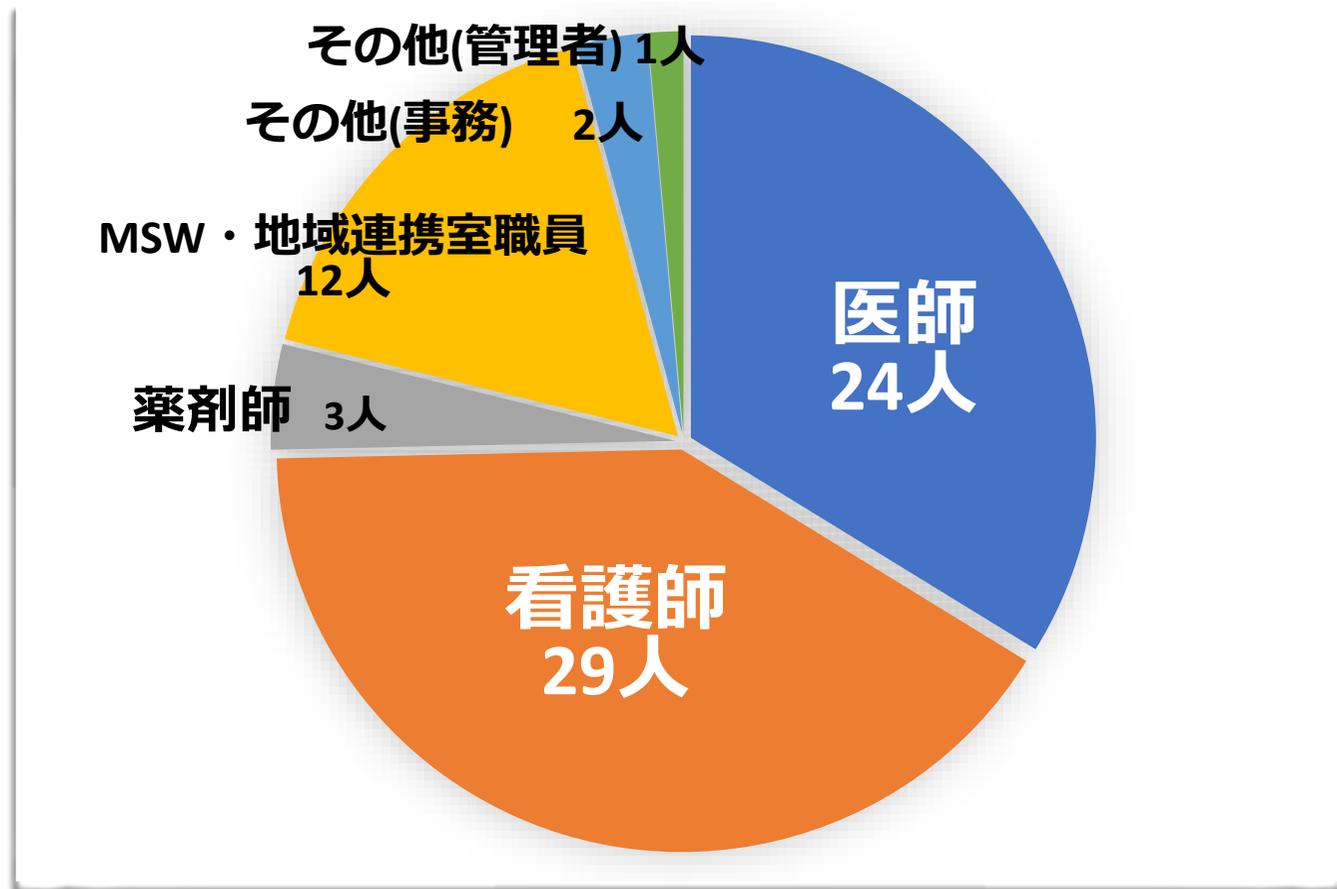
## 施設別

病院	56
診療所	12
在宅サービス	3

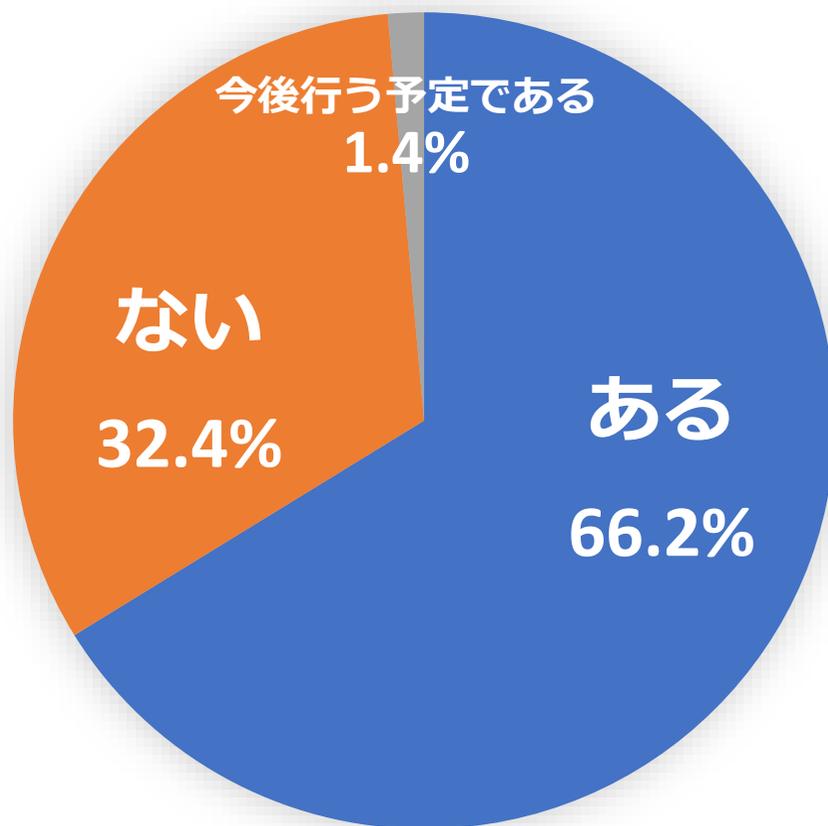
## 医療圏別

県南東部	36
県南西部	30
津山・英田	3
高梁・新見	1
真庭	1

### Q3 あなたの職種はどれに当たりますか



**Q4 薬物療法あるいは支持療法を行っている、もしくは他院で薬物療法施行中あるいは施行後のがん患者の診療の経験がおありでしょうか**



Q6 薬物療法あるいは支持療法を行っている、もしくは他院で薬物療法施行中あるいは施行後のがん患者の病病連携・病診連携・在宅サービス提供において特に有用であった情報伝達手段は何でしょうか（複数回答可）

• 医師の診療情報提供書	37
• 地域連携室からの情報	20
• 退院・転院前の退院支援カンファレンス	15
• 地域連携パス	2
• 晴れやかネット	2
• 病院薬剤師の退院サマリ	1
• 電話連絡	1
• 看護添書	1
• 直接担当医と相談できる環境がある	1
• 患者が持っている化学療法説明書や薬手帳	1
• その他(現場を離れているため分からない)	2

**Q5 薬物療法あるいは支持療法を行っている、もしくは他院で薬物療法施行中あるいは施行後のがん患者の病病連携・病診連携・在宅サービス提供において困っていることは何でしょうか？  
(複数回答可)**

- **どのようなインフォームドコンセントがされているかの情報が得られにくい** 21
- **患者の薬物療法のレジメンや、これまでの有害事象などの情報が十分に得られない** 14
- **薬物療法の経験が少ないので、薬物の使用法・有害事象などについてスタッフへの教育が必要である** 12
- **至急（夜間・休日も含めて）の検査を行う体制が不十分** 11
- **有害事象に対する対処法がわからない（十分な対応ができない）** 8
- **状態が急変した際の入院（転院）先を探すのに時間がかかる** 5
- **特になし** 9
- **その他**
- **退院前カンファレンス等の情報共有が不十分で、在宅ケアに支障が出る** 10
- **患者さんが有害事象に対応してくれる、かかりつけ医を持っていない** 1
- **地域の医療機関でどこまで対応可能かわからない** 1

**Q7 薬物療法あるいは支持療法を行っている、もしくは他院で薬物療法施行中あるいは施行後のがん患者の病病連携・病診連携・在宅サービス提供を推進するために必要と考えられる仕組みについてご提案がありましたらご記入ください。**

### **共通のフォーマット**

必要事項を記載できる共通のシート  
岡山県在宅緩和ケアパスのような統一した様式  
癌患者の連携パス  
ACP冊子や患者手帳の活用

### **情報システムのインフラ整備**

晴れやかネットの推進  
診療情報のクラウド化

### **施設の情報提供と共有**

地域の医療機関の対応可否と限界についての情報共有  
緊急時対応可能なかかりつけ病院の整備